橋本市橋本上田家住宅中央棟の昭和 9(1933) 年建築に見る木材の供給について

近代の橋本市中心市街地における住宅建築に対する木材の供給 その 4

STUDY ON THE SUPPLY OF THE LUMBER FOR BUILDING OF THE UEDA'S CENTRAL HOUSE
IN 1933 AT HASHIMOTO IN HASHIMOTO CITY

Supply of the lumber for building house in central Hashimoto modern times part 4

平山育男*

Ikuo HIRAYAMA

This article clarified the actual situation of the wood supply and the use of American timber in the building of the house at the central area of Hashimoto city, in the early period of the Showa era. In the construction of Ueda's center house, there was supply of the wood from two places of local Hashimoto; in addition, they purchased the board which had difficulty in acquisition at Hashimoto from Sakai. The material volume of the American timber delivered to the Ueda's house was 46% of the whole, and the ratio for the wood purchase total sum was 44%.

Keywords : Estimate, lumber company, American timber

見積書, 材木店, 米材

1. はじめに

近代における民家建築への木材供給について、その実態と変遷を明らかにすることを目的として和歌山県橋本市中心市街地の事例調査において発見された建築文書を用い一連の研究を進めている。

研究ではこれまでに大正 3(1914)年の木村家住宅主屋建築の分析から、この工事では古材も用い、全ての木材が橋本周辺 8km 圏で調達されたことを示した^{注1)}。次いで大正 9(1920)年の池永家住宅離れ座敷の建築では、施主池永が大工を同道し橋本から 40km 以上離れた大阪で化粧材購入を行ったことを指摘したが、これには大正 4(1915)年開通の高野鉄道が寄与したことも示した。つまり、鉄道の開通は広範な中間層に対し大阪における材料の購入を促した結果、民家の類似化と洗練化を促したことを明らかとした^{注2)}。続く橋本市橋本稲葉家における大正 13(1924)年の角座敷増築と昭和 4(1929)年別座敷建築における木材の供給についての考察では、高級材を大阪などで購入することが一般化したことを示すとともに、特に昭和時代になると材積で 1/3 に近い米材の利用が確認できることを指摘し、関東大震災以後、比較的早い時期に軸部材を中心に米材の利用が一般的な民家でも急速に進んだことを示した^{注3)}。

本稿では以上の考察を受け、橋本市橋本に所在した昭和 9(1934)年の上田家住宅中央棟建築において作成された資料類の読解を通し、この時期における民家への木材供給のあり方を見ようとするものである。特に考察では昭和時代初期から始まった米材の利用実態と米

材がどのような部位に利用されたのかについて考察を加えることを目的とする。なお、資料は断りのない限り梅嶋修がまとめた橋本市中心市街地における建築資料を用いる^{参1)}。

なお従来、米材など外材の国内流入については戦前からの研究蓄積^{注4)}はあるが、一般住宅である民家などにおける米材の使用と滲透について歴史・意匠の分野からの論考は少なく、構法の分野から堤洋樹^{注5)}、杉原龍子^{注6)}らなど最近のものを見るに留まる。

2. 上田家住宅と建築文書の概要

2-1 上田家住宅について

上田家住宅は橋本市橋本に所在し、橋本駅前中心市街地の内、旧大和街道の一部である本町商店街中程に位置し布団店を営んだ。街道に南面して建物 3 棟が建ち、東から東棟、中央棟、西棟となり、中央棟背後に土蔵が配される。中央棟は昭和 9(1934)年にそれまであった旧主屋西半分を切断して新築し、東棟は残りの東半分を昭和 39(1964)年に取り壊し建築したもので、西棟は明治時代後期頃の建築と考えられた^{注7)}。

2-2 上田家住宅に保管される建築文書の概要

上田家住宅では昭和 9(1934)年の中央棟建築に際し建築文書が作成され、『建築用金銭出入簿』(以後、『出入簿』と記す)、『材料買入日記』(以後、『日記』と記す)、『祝』、『材木控』の 4 通が現存する。

『出入簿』は表紙と 12 紙、裏表紙から構成され、表紙表に昭和

* 長岡造形大学造形学部 教授・博士(工学)、博士(造形)

Prof., Faculty of Design, Nagaoka Institute of Design, Dr. Eng., Dr. Design

表 1 上田家住宅『金銭出入簿』に見る建築材料の支払

頁	紙表裏	項目	分類	金額 [円]	計算累計 [円]	記述累計 [円]
172	1 表	松山	木材	100	100	100
172	1 表	松山果物代栗林	木材	0.6	100.6	100.6
172	1 表	大工左官受渡勘定ノ時ノ酒肴費用	その他	2.5	103.1	103.1
172	1 表	帳簿代金	その他	0.4	103.5	103.5
172	1 表	大工チョウナ始祝儀 取消	その他	2取消	103.5	406.5
172	1 表	全人へ御供へノ酒肴代	その他	1.25	104.75	104.75
172	1 表	大和三輪明神へ	その他	3	107.75	107.75
172	1 表	作業開始肉共 大工祝酒代	その他	1.35	109.1	109.1
172	1 表	山本徳市渡	壁	15	124.1	114.1
173	1 裏	堺行二人 材木買約	木材	5.5	129.6	119.6
173	1 裏	大常渡	建築	10	139.6	129.6
173	1 裏	全人渡	建築	90	229.6	219.6
173	1 裏	冷水材木	木材	200	429.6	419.6
173	1 裏	小谷口ノ松転口料払	その他	15	444.6	434.6
173	1 裏	貸家瓦燈トリクスシ	その他	1.5	446.1	436.1
173	1 裏	縄張二酒肴料	その他	3.85	449.95	439.95
173	1 裏	近所へコブチノ礼ニ手拭口口口五軒へ	その他	1.5	451.45	441.45
173	1 裏	大常渡ス	建築	30	481.45	471.45
173	1 裏	蔵コボチ夜食	その他	1	482.45	472.45
173	2 表	電灯取付取り消し	設備	0	482.45	472.45
173	2 表	松山渡シ	木材	500	982.45	972.45
173	2 表	電話位置変更	設備	4	986.45	976.45
173	2 表	倉ペランダ棟上一杯	その他	10	996.45	986.45
173	2 表	ウドン代	その他	0.32	996.77	986.77
173	2 表	電燈取除取付	設備	2.55	999.32	989.32
173	2 表	堺間材木ダ	建具	0.87	1000.19	990.19
173	2 表	堺間材木ダ	建具	1.98	1002.17	992.17
173	2 表	左官	壁	15	1017.17	
173	2 表	井戸掘祝儀	設備	1	1018.17	1008.17
173	2 表	〇通へセメント代	基礎	24	1042.17	
173	2 裏	大常渡	建築	120	1162.17	
173	2 裏	稲作	建築	4.7	1166.87	
173	2 裏	鍛政	建築	44.55	1211.42	
173	2 裏	山本徳市渡	壁	200	1411.42	
173	2 裏	福井セメント	基礎	37.35	1448.77	
173	2 裏	中谷楠七郎砂利	基礎	3.6	1452.37	
173	2 裏	神谷建具	建具	4.7	1457.07	
173	2 裏	鍛冶政	建築52.45 設備21.85 その他0.4	74.7	1531.77	
173	2 裏	芋生重吉	その他	1.07	1532.84	
173	3 表	煙万	建築	10.45	1543.29	
173	3 表	石常	壁ノタイル	4.5	1547.79	
173	3 表	坂部	基礎	8.2	1555.99	
173	3 表	井戸埋立	設備	22	1577.99	1567.99
173	3 表	上様式小使	その他	10	1587.99	
173	3 表	上様式小使	その他	6	1593.99	
173	3 表	七味焼物ノクズシ代	その他	25	1618.99	
173	3 表	手伝包物大工左官祝儀	その他	42	1660.99	
173	3 表	七味板場礼	その他	2	1662.99	
173	3 表	外酒一本	その他	1	1663.99	
173	3 表	祝ギ	その他	29.4	1693.39	
173	3 表	外酒六本	その他	6	1699.39	
174	3 裏	板場手伝 雇人礼	その他	22	1721.39	
174	3 裏	滝脇大夫礼	屋根	4.1	1725.49	
174	3 裏	村越礼 トフ百酒一升	その他	2	1727.49	
174	3 裏	藤田座敷借賃	その他	1	1728.49	1718.49
174	3 裏	電燈燭光	設備	0.28	1728.77	
174	3 裏	葺オロシ	屋根	3	1731.77	
174	3 裏	出岩吉礼	その他	1	1732.77	
174	3 裏	堀田ハマ礼	その他	1	1733.77	
174	3 裏	竹林トシ礼	その他	2	1735.77	

174	3 裏	藤田イト礼	その他	1.5	1737.27	
174	4 表	田中サダ礼	その他	1	1738.27	
174	4 表	植田コシゲ礼	その他	1	1739.27	
174	4 表	屋根葺諸小使	屋根	15	1754.27	
174	4 表	小嶋康代トユ代	建築	50	1804.27	
174	4 表	竹ノや	その他	6.84	1811.11	
174	4 表	吉や弁当	その他	15	1826.11	
174	4 表	藤や弁当	その他	49	1875.11	
174	4 表	滝脇代内入	屋根	250	2125.11	2115.11
174	4 表	小野辰板代	木材	216.4	2341.51	
174	4 表	〃送料	木材	0.1	2341.61	2331.61
174	4 裏	〇善孝代廻り	建築	6	2347.61	
174	4 裏	大常渡	建築	130	2477.61	
174	4 裏	左官徳渡	壁	70	2547.61	
174	4 裏	福井払	設備	2.56	2550.17	
174	4 裏	神谷払	建具	0.57	2550.74	
174	4 裏	土佐井酒代払	その他	9.18	2559.92	
174	4 裏	荒仙払	その他	0.95	2560.87	
174	4 裏	鍛冶政払	建築40.28 設備34.08 その他-0.36	74	2634.87	
174	4 裏	松山渡	木材	100	2734.87	
174	4 裏	扇子や払	その他	4.89	2739.76	
174	5 表	坂部金物店払	建築	42.02	2781.78	
174	5 表	煙万払	建築	3.2	2784.98	
174	5 表	稲作払	建築	4.6	2789.58	2779.58
174	5 表	欄間屋大坂木下松蔵買入	建具	21	2810.58	
174	5 表	大坂村井硝子や買入	建具	6.5	2817.08	
174	5 表	欄間買入ノ為旅費	建具	5	2822.08	
174	5 表	滝脇へ渡ス 陳列戸内渡シ	建築	40	2862.08	2851.88
174	5 表	小嶋栄一 トユ代内渡	建築	40	2902.08	2891.88
174	5 表	蝶形イナゴ止メ 巻100個代	建築	0.75	2902.83	
174	5 表	大坂コリガラス及鏡ノ運賃	建具	0.86	2903.69	
175	5 裏	陳列戸内渡シ ニス代	設備	10	2913.69	
175	5 裏	村井芳二郎ガラス代払	建具	22.71	2936.4	
175	5 裏	臨時電燈代	その他	0.28	2936.68	
175	5 裏	赤沢電燈取付代渡支払	建築	30.36	2967.04	
175	5 裏	電話移転料払	設備	4	2971.04	2960.86
175	5 裏	石井種木や払	外構	27	2998.04	2987.86
175	5 裏	宮井建具や内渡	建具	100	3098.04	
175	5 裏	堀尾〃支払	建具	32	3130.04	
175	5 裏	福井建具屋払	建具	25	3155.04	
175	5 裏	東家福井支払	壁	7.7	3162.74	
175	6 表	山本徳一市渡	壁	150	3312.74	
175	6 表	〇通セメント代払	壁	6	3318.74	
175	6 表	稲作払	建築	2.8	3321.54	
175	6 表	日ノ下タタミや払	畳	27.5	3349.04	
175	6 表	山本鉄工所払	建築13.89 設備35.03 その他-0.92	48	3397.04	
175	6 表	大常払	建築	70	3467.04	
175	6 表	煙万払	建築	3.83	3470.87	
175	6 表	冷水材木や払	木材	80	3550.87	
175	6 表	赤沢電気キ具代	設備	10.45	3561.32	3551.14
175	6 表	坂部セメント代払	設備	6	3567.32	3557.14
175	6 裏	建築中仮営業所家賃	その他	16.5	3583.82	3573.64
175	6 裏	陳列ガラス運賃	建築	0.28	3584.1	3573.92
175	6 裏	藤村支払	建築	47.82	3631.92	
175	6 裏	全人払	建築	5.08	3637	3626.82
175	6 裏	大工左官仕上ノ落成宴会費ノ内酒代	その他	5.5	3642.5	
175	6 裏	全トヘ 田中 両人チップ代	その他	2	3644.5	
175	6 裏	全 大坂や肴代	その他	1.75	3646.25	
175	6 裏	全諸費	その他	1.5	3647.75	
175	6 裏	神谷建具代払	建具	31	3678.75	3670.57
175	6 裏	石井礼神様写シ口ノ酒上費	その他	10	3688.75	3680.57
175	7 表	小嶋プリキや払	建築	40	3728.75	3720.57
175	7 表	大福払	その他	30	3758.75	

175	7 表	〇一払	その他	20	3778.75	
175	7 表	斉藤電機払	設備	3.8	3782.55	
175	7 表	富岡払	建具	100	3882.55	3874.37
175	7 表	落成祝ギタメノ包モノ	その他	21	3903.55	3895.37
175	7 表	芸者仲居チップ口礼	その他	6	3909.55	3901.37
175	7 表	日ノ下タタミや払	畳	31.5	3941.05	
175	7 表	魚口払	その他	2.5	3943.55	3935.02
176	7 裏	落成諸費	その他	8.77	3952.32	
176	7 裏	花岩へ花代	その他	0.2	3952.52	
176	7 裏	堀仙吉氏ノタメ	その他	2.5	3955.02	3946.49
176	7 裏	石井タイル代払	壁	50	4005.02	3996.49
176	7 裏	大常工費払	建築	60	4065.02	
176	7 裏	全人ユカ成功費賞与	建築	30	4095.02	
176	7 裏	山本鉄工所払	設備	9	4104.02	4095.49
176	7 裏	大工手伝へ心付	建築	10	4114.02	
176	7 裏	宮井払	建具	60	4174.02	
176	7 裏	大口山建具代払	建具	60	4234.02	
176	8 表	池永武男氏家借賃	その他	10	4244.02	4235.49
176	8 表	ひさご支払	その他	3.42	4247.44	4238.91
176	8 表	小嶋康代払	建築	67	4314.44	4305.91
176	8 表	冷水材木代払	木材	120	4434.44	4425.91
176	8 表	煙万払	建築	11.8	4446.24	4437.71
176	8 表	山本徳市払	壁	170	4616.24	4607.71
176	8 表	福井払	設備	8.2	4624.44	4615.91
176	8 表	稲作払	建築	3.88	4628.32	
176	8 表	〇通合同セメント代払	建築	6	4634.32	
176	8 表	坂部払	建築	16.21	4650.53	4642
176	8 裏	小嶋支払	建築	0.3	4650.83	
176	8 裏	亀や支払	畳	40	4690.83	4682.3
176	8 裏	亀井常一払	その他	5	4695.83	4687.3
176	8 裏	池田テント代払	設備	24	4719.83	
176	8 裏	稲作払	建築	2.14	4721.97	
176	8 裏	木下道具店払	建具	3.3	4725.27	
176	8 裏	煙万払	建築	0.53	4725.8	
176	8 裏	大常払	建築	11.77	4737.57	
176	8 裏	冷水材木払	木材	1.4	4738.97	
176	8 裏	左官徳払	壁	12.93	4751.9	
176	9 表	坂部払	建築	5.66	4757.56	
176	9 表	山本鉄工所払	設備	6	4763.56	
176	9 表	藤村礼 滝脇渡	建築	3.53	4767.09	
176	9 表	見返食堂払	その他	5.25	4772.34	
176	9 表	松山村木店差引払	木材	220	4992.34	4983.31
176	9 表	大常二階テスリ	建築	9	5001.34	
176	9 表	森下払 床ノ上敷	畳	1.8	5003.14	
176	9 表	寺田払 東側裏カベノ土代	壁	1.6	5004.74	
176	9 表	煙万クギ代	建築	0.56	5005.3	
176	9 表	稲作 裏ノマ口口レール代	建築	1.27	5006.57	4997.54
177	10 裏	建築口口や諸品買入払メ高	建築	40	5046.57	
177	10 裏	全工場運夫臨時日雇人夫賃	建築	40	5086.57	
177	10 裏	全米代飯見積 但此分祝ギ貫タ分	建築	110	5196.57	
177	10 裏	全 酒代	その他	55	5251.57	5242.54
177	10 裏	建築税	その他	60	5311.57	5302.54
177	10 裏	向冷水材木代	木材	18.6	5330.17	
177	10 裏	大常払	木材	2.15	5332.32	
177	10 裏	鍛冶政払	設備	0.5	5332.82	
177	10 裏	富澤ツクエケ代払	その他	5.5	5338.32	
177	10 裏	鍛冶政払	設備	13.6	5351.92	5342.89
177	11 表	大常 餅シキ用セイロ代其他	その他	13.7	5365.62	5356.59
177	11 表	冷水同ウス代	その他	13	5378.62	5369.59
177	11 表	富岡表具代 掛モノ	建具	2	5380.62	
177	11 表	才藤電燈工事代	設備	4.8	5385.42	
177	11 表	藤村陳列台	建築	5.8	5391.22	
177	11 表	愛国生命借金利子	その他	35.75	5426.97	5417.94

凡例 頁: 参考文献1)別冊資料における掲載頁 網掛欄: 表2に抽出した木材の購入

図1 上田家住宅主屋中央棟外観 南西より

図2 上田家住宅中央棟平面図

8(1933)年11月3日の日付がある。記載は昭和10(1935)年7月31日支払分まで、内容は基本的に日付順に材木代、建築、壁工、建具、畳、屋根、設備、外構、植木、材木、上棟式費用など、建築全般にわたる金銭出入の控が記される。

『日記』は表紙及び76紙、裏表紙からなり、表紙表に昭和8(1933)年11月3日の日付、第1紙表に“目出度始メ／昭和八年十一月二日／上田”(／は改行)とあり、第1紙裏以後は業者毎の購入控を記す。

『祝』は、表紙と30紙及び裏表紙からなる資料で、表紙表に昭和9(1934)年3月と記される。記載内容は昭和9(1934)年4月に実施された中央棟上棟を始めとする祝儀の控書である。

『材木控』は、表紙と6紙、裏表紙からなり、制作時期は明らかでない。但し上田家住宅中央棟と比較すると材寸がよく適合し、昭和9(1934)年の中央棟建築における材木の控と判断できる^{注8)}。

3. 昭和9(1934)年上田家住宅中央棟建築の総額と木材の供給

3-1 建築の総額

『出入簿』には214項の記載があり、末尾の第11紙裏以後は東側隠居部分の改修工事で、中央棟工事に関わるものはない^{注9)}。つまり、それらを除いた第11紙表まで186項の出金合計が中央棟の建築に関わる総額となる(表1)^{注10)}。この分について『出入簿』では第11紙表に“五四一八・四四”^{注11)}、とする合計値(以後、「記述合計値」と記す)を示すが、この数字には下記のように誤差が含まれる。『出入簿』では第1紙表1行目に、上から“摘要”“出金”“合計”の欄が作られる。日付は第1紙表のみ欄外上^{注12)}、第1紙裏以後は摘要欄が二分割され、最上欄に記される^{注13)}。この内、合計欄に記される値が累計値となるが、合計欄は186項全てで記入されるわけではない。第2紙裏以後は少なくとも月末、各紙表裏で数カ所程度、合

計69項、186項で全体の37%に過ぎない。累計値は第2紙表までは各列で求められるが、第2紙裏以後は、出金の小計を累計値の向かって右上に小さな文字で書き込み、これを直前の累計値“五四一八・四四”、即ち5418.44円が記述合計値となる。

一方、各欄の合計値を求めると5426.97円(以後、「計算合計値」と記す)となり、記述合計値とは8.53円の誤差が生じる。

3-2 木材の供給の実態

『出入簿』には表2に示した15項の木材類購入記録がある。

表2の第1、2、5、10、14項目に示した松山及び松山材木店関係へ支払を合計すると920.6円となる。『日記』によれば、松山材木店とは大正3(1914)年における木村家住宅主屋建築に際し木材を供給

表2 『出入簿』に見る木材の購入

番号	記載箇所 紙 裏表	購入先	金額[円]	購入先金額[円]		
				松山	冷水	堺
1	1 表	松山	100	100		
2	1 表	松山果物代栗林	0.6	0.6		
3	1 裏	堺行二人 材木買約	5.5			5.5
4	1 裏	冷水材木	200		200	
5	2 表	松山渡シ	500	500		
6	2 表	堺間材木ダ	0.87			0.87
7	2 表	堺間材木ダ	1.98			1.98
8	4 表	小野辰板代	216.4			216.4
9	4 表	〃送料	0.1			0.1
10	4 裏	松山渡	100	100		
11	6 表	冷水材木や払	80		80	
12	8 表	冷水材木代払	120		120	
13	8 裏	冷水材木払	1.4		1.4	
14	9 表	松山材木店差引払	220	220		
15	10 裏	向冷水材木代	18.6		18.6	
合計[円]			1565.5	920.6	420	224.85
割合[%]			100%	58.8	26.8	14.4

表 3 上田家中央棟計算合計値に占める各工事費の割合

分類	木材	建築	壁	建具	畳	屋根	設備	外構	その他	合計
支払額[円]	1565.45	1466	701.13	476.24	100.80	272.10	201.70	27.00	616.74	5426.97
割合[%]	28.8	27.0	12.9	8.8	1.9	5.0	3.7	0.5	11.4	100.0

した松山久吉の松山材木店と判明する^{注14)}。大正 3(1914)年には高野口町杖ヶ藪に工場を構えた松山であった^{注15)}が、この時点では橋本の妻に工場を移している。上田家と松山は昭和 8(1933)年 11 月 2 日、上田伊助本人と上田家の斜向いとなる岩崎家主の岩崎梅松、松山の立ち会いで木材の契約を松山の工場で行い、手附金 100 円を払った^{注16)}。2 回目の支払は上棟式の少し前となる翌昭和 9(1934)年 3 月 5 日に 500 円^{注17)}、3 回目は上棟のあった 4 月末に 100 円^{注18)}、落成式後の昭和 9(1934)年 8 月 11 日に 220 円の清算があった^{注19)}。松山製材所が供給した材の詳細は『出入簿』には記されず、『日記』に追加分のみが記録され、『材木控』には名称、材料、長などが記されるものの注文先の記載はない^{注20)}。このため詳細は明らかでないが、松山による納入が上棟前に偏ることから、上棟に必要な軸部材を中心とするものであったと考えることができる。

表 2 第 4、11～13、15 項目に挙げた冷水材木店への支払は 420 円となる。初回の支払は昭和 9(1934)年 2 月 13 日で、280 円の契約に対し 200 円を支払った。契約には冷水材木店店主、大工の平野常吉、前述の岩崎、上田本人と母が立ち会った^{注21)}。残金 80 円の支払は落成前の昭和 9(1934)年 5 月 31 日にあり^{注22)}、以後追加の注文に対する支払は 6、7、10 月の月末に行われた^{注23)}。

表 2 第 3、6～9 項目における堺とは、『日記』に記載される堺市大町西四丁に所在した小野辰材木部と考えられる。昭和 9(1934)年 2 月 1 日に行われた買約には 2 人で赴いた^{注24)}。同年 3 月 26 日にも再訪し^{注25)}、同年 4 月 26 日、216.4 円が振り込まれた^{注26)}。『出入簿』の振込日摘要欄に“小野辰板代”ともあり^{注27)}、同店からの購入詳細を『日記』で確認すると、台桧杢板、台桧桎板、床天井板、花林達棚、黒丹床ブチ、米杉桎板、米杉桎板など何れも板材で、花梨、黒檀などの銘木が目につく^{注28)}。

3-3 木材の供給のあり方

昭和 9(1934)年における上田家住宅中央棟の建築における木材供給のあり方を見ると、上田家ではこのように橋本と堺の 2 方面から木材の購入を行ったことが判明する。つまり、軸部材などの主要部材は地元の松山材木店と冷水材木店が担い、両者の金額を合算すると木材購入額に占める割合は 86%となった。一方、地元では入手の難しい銘木となる板の類は堺の小野辰材木部に赴き購入した。

なお、昭和 8(1933)年 11 月 2 日に松山との契約金は 1,100 円^{注29)}であったが、最終的な支払は 920.6 円となった。『日記』で“床ノ間及変更取消分”^{注30)}とあり、床の間の材も当初は松山から購入予定であったが、小野辰材木部からの購入に変更されたことが判明する。

3-4 木材支出などの割合

『出入簿』には表 2 に抽出した 15 項目の木材関連項目があり、合計 1565.45 円であった。一方、186 項目からなる『出入簿』の計算合計値は 5426.97 円で、これに対する木材費の割合は 29%となる。

また、『出入簿』に挙げられた全ての項目を木材費、建築工事費、壁（左官）工事費、建具工事費、畳工事費、屋根工事費、設備工事費、外構工事費、その他に分類したものが表 3 である。これらによれば上田家中央棟の工事では木材費の占める割合が最も高く、次い

で建築工事費、壁工事費で、この 3 項目で全体の 67%、全工事費の 2/3 以上を占めることとなる。

4. 上田家住宅中央棟工事における米材の利用

4-1 米材利用の記録

上田家住宅中央棟の工事では松山材木店（松山製材所）、冷水材木店、堺市の小野辰材木部が材木を納入したが、この 3 業者の内、米材を上田家に納めたのは松山材木店、冷水材木店の 2 業者である。

一方、工事記録で米材の供給が記されるのは『日記』、『材木控』である。以下、この 2 資料における米材の記載内容を検討する。

・『日記』

『日記』は業者ごとの購入控で、第 49 紙裏から第 54 紙裏に記される冷水材木店^{注31)}、第 55 紙裏から第 58 紙表にかけて記される松山製材所^{注32)}分の記述に米材の記載がある。

冷水材木店分が表 4 に示した 15 項である。ところでこの記述は、これに先立ち第 4 紙裏から第 5 紙表にかけて冷水材木店^{注33)}と“変更分材木代”としての勘定があり、それに“追加分”としての扱いが第 49 紙裏^{注34)}からとなる。追加分は部材名が示されないが逐一の材寸及び員数、値段は判明する。しかし、資料前半部に掲げられる変更分材木代について内訳の詳細は明らかではない。つまり、本資料において冷水材木店からの米材納入内容は追加分の部材寸法、員数、値段のみが判明する。

この点の事情は松山材木店も同様である。松山材木店から納められた米材は表 5 に挙げた 5 項であるが、これは第 55 紙裏^{注35)}以後に記される“追加材”の材寸及び員数、値段で、『日記』第 1 紙裏から第 2 紙表にかけて記される“勘定”^{注36)}分については冷水材木店同様、内訳の詳細は明らかではない。このように、松山材木店についても『日記』から判明する米材納入の内容は、追加材の部材寸法、員数、値段で部材名は不明である。

・『材木控』

『材木控』に記される納入業者は既に述べたように松山材木店で、列挙される部材は上棟までに必要な軸部材が中心であった。さて、『材木控』には柱から始まり半柱、カモイ、上ノケタなど 107 項にわたる部材が記されるが、この内、“材料”の欄に“米”と記されるものが米材と判断できる。これによれば、『材木控』に挙げられる米材は表 6 に示した 24 項となる。

4-2 米材の用途

以上のように上田家住宅中央棟工事における米材利用実態について、『日記』からは追加分のみしか知ることができないのに対して、『材木控』には部位が記され、米材が使われた部材がカモイ、上ノケタ、中ノケタ、カワバリ、出ケタ、ウデと判明する。以下、使用箇所などについて『材木控』に基づき検討を加えたい。

・カモイ

長が 1 間から 5 間、幅と考えられる寸法が 4 寸と 4 寸 5 分、高さが 3 寸から 1 尺 7 寸となる。

部材として鴨居は『材木控』の後半部分に桧材による“シキ カモイ”^{注37)}が別に挙げられることから、ここで言う“カモイ”とは、いわゆる鴨居とは別材となる。また、高さが 1.0 尺を越える材が多々あり、断面形状から考え少なくとも差鴨居とも考えられるが、長さ 5 間の材が 2 丁、3 間が前半で 4 丁挙げられる点は、実態に合致しな

表 4 上田家へ冷水材木店による米材の納入

番号	紙数	表裏	材種	長	幅 [尺]	高 [尺]	員数	値段 [円]	形状	1間＝5尺 1丈＝7.5尺		1間＝6.3尺 1丈＝10尺	
										材積	単価	材積	単価
										[立方尺]	[円/ 立方尺]	[立方尺]	[円/ 立方尺]
1	49	裏	米松	2 間	0.34	0.34	1	2.16		1.16	1.87	1.46	1.48
2	50	表	米松	2 間	0.22	0.25	1	1.00		0.55	1.82	0.69	1.44
3	50	表	米松	2 間	0.12	0.18	10	4.00		2.16	1.85	2.72	1.47
4	51	表	米松	2 間	0.25	0.30	4	6.00		3.00	2.00	3.78	1.59
5	51	表	米	2 間	0.18	0.30	2	2.40		1.08	2.22	1.36	1.76
6	51	表	米松	1 丈	0.25	0.30	3	3.40		1.69	2.01	2.25	1.51
7	51	表	米松	1 丈	0.20	0.30	1	0.90		0.45	2.00	0.60	1.50
8	51	表	米松	1 間	0.25	0.30	1	0.75		0.38	2.00	0.47	1.59
9	51	裏	米	1 丈	0.20	0.35	1	1.05		0.53	2.00	0.70	1.50
10	52	表	米松	1 丈	0.10	1.30	2	4.00	板	1.95	2.05	2.60	1.54
11	52	表	米松	1 丈	0.20	0.20	2	1.20		0.60	2.00	0.80	1.50
12	52	表	米松	1 間	0.10	1.30	1	1.20	板	0.65	1.85	0.82	1.47
13	52	表	米松	1 間	0.08	0.18	12	0.85	板	0.43	1.97	0.54	1.56
14	52	裏	米松	3	0.35	0.50	2	0.85	板	1.05		1.05	
15	52	裏	米松	5	0.10	0.30	2	0.55	板	0.30	1.83	0.30	1.83
合計/平均										15.97	1.96	20.15	1.55

表 5 上田家へ松山製材所による米材の納入

番号	紙数	表裏	材種	長 [間]	幅 [尺]	高 [尺]	員数	値段 [円]	材積 [立方尺]	単価 [円/ 立方尺]	備考
1	55	裏	米	5	0.79		1	16.00	24.73	0.65	1尺口
2	55	裏	米	3	0.4	0.7	2	13.44	10.58	1.27	
3	55	裏	米	3.5	0.4	0.9	1	10.08	7.94	1.27	
4	55	裏	米	2	0.4	0.9	2	11.55	9.07	1.27	
5	56	表	米	3.5	0.45	0.35	1	4.32	3.47	1.24	
合計									55.39	55.79	

表 6 『材料控』に見る米材

番号	紙数	表裏	部材名など	材種	長	幅 [尺]	高 [尺]	員数	体積[立方尺] 1間＝6.3尺
1	1	表	カモイ	米	5 間	0.4	1.4	2	35.28
2	1	裏	カモイ	米	3 間	0.45	1.7	1	14.46
3	1	裏	カモイ	米	3 間	0.4	1.5	2	22.68
4	1	裏	カモイ	米	3 間	0.4	1.4	1	10.58
5	1	裏	カモイ	米	2 間	0.4	1.1	5	27.72
6	1	裏	カモイ	米	1 丈	0.4	1	10	40.00
7	1	裏	カモイ	米	0.5 間	0.4	0.8	1	1.01
8	1	裏	カモイ	米	3 間	0.4	1.1	2	16.63
9	1	裏	カモイ	米	2.5 間	0.4	1.1	1	6.93
10	1	裏	カモイ	米	3.5 間	0.4	1.3	1	11.47
11	1	裏	カモイ	米	10 丈	0.4	1	1	40.00
12	1	裏	カモイ	米	10 丈	0.4	0.9	3	108.00
13	2	表	カモイ	米	9 尺	0.4	1	1	3.60
14	2	表	カモイ	米	9 尺	0.4	0.7	1	2.52
15	2	表	カモイ	米	1 間	0.4	0.7	2	3.53
16	2	表	カモイ	米	1 間	0.3	0.4	1	0.76
17	2	表	上ノケタ	米	3.5 間	0.45	1.1	2	21.83
18	2	表	中ノケタ	米	3 間	0.6	1.6	1	18.14
19	2	表	カワバリ	米	5 間	0.45	1.1	2	31.19
20	2	表	出ケタ	米	3.5 間	0.35	0.45	1	3.47
21	2	裏	ウデ	米	2.2 尺	0.35	0.45	7	2.43
22	6	表	切上天井	米	3 間	0.5	0.04	39	14.74
23	6	表	廻りブチ	米	3 間	0.15	0.2	4	2.27
24	6	表	廻りブチ	米	3 間	0.15	0.15	11	4.68
合計									443.91

い。5 間はこの中央棟の梁行規模、3 間は桁行規模に等しい^{注38)}。実際の建物では 2 階床伏は両妻に 5 間長さで長方形断面の材を渡し、桁行には前後 4 カ所の長方形断面の材を架け、更に小梁として桁行に背面は 2 間に 5 材、正面側は 3 間 2 つ割の割り付けで 10 材が配される。このように考えると、『材木控』の“カモイ”とは 2 階床梁に相当する材と判断できる。

なお、『材木控』においては柱材でも先ず主屋部分を記し、次いで背面の流しや風呂、ベランダ部分などの付属屋部分を記載する。カモイも、第 1 紙表の長さ 5 間から第 1 紙裏の半間までが主屋、以後が付属屋部分と考えることができよう。

・上ノケタ・中ノケタ

上田家住宅中央棟では 2 階桁の表裏に高 1.0 尺を越える桁を用いていた。桁行規模が 3 間であり、これが上ノケタに該当するものと考えられる。一方、小屋裏を見ると、この住宅では桁行中央にはやはり高さ 1 尺を越える材を配していた。この材はいわゆる敷桁と呼ばれるものであるが、『材木控』にその呼称は見られず、寸法などから考えると“中ノケタ”がこれに当るものと考えられる。

・カワバリ

“カワバリ”は 5 間の長さを有するもので、上田家住宅中央棟の梁行長さに等しい。このことからこれが“側梁”を指し、妻面 2 階高さのいわゆる妻梁と考えることが出来よう。

・出ケタ・ウデ

出ケタ及びウデとは、建物正面 2 階軒に取り付く、いわゆるせがい造の出桁とそれを支える腕木と考えてよいだろう。建物には 5 本の腕木が現状で配され、出桁長 3.5 間は既出の“上ノケタ”長さに等しい。

・切上天井^{注39)}、廻りブチ

この切上天井自体の形態は明らかでないが、3 間、5 寸幅、39 枚という数量をもとに、1 間＝6.3 尺として換算してみると、この数量は 1 階店舗部分の面積に匹敵することが分かる^{注40)}

また、廻りブチは長さ 3 間、材高 0.2 尺、4 本のものは 1 階店舗部分に該当する。

以上のように、上田家住宅中央棟において米材が用いられる個所を見ると、軸組では胴差及び 2 階床組、小屋組の梁・桁など構造材として柱を除いた主要な部材となる。加えて、軒周りではせがい梁と出桁など、建物正面において地域と時代の特色をよく示す部分にも米材を用いたことが知られる。また、天井材は店舗部分で、これも店を訪れる多くの人々の目に触れる部分である。

4-3 米材の単価と値段算定

『材木控』には金額関係の情報が一切記されていないため、材木単価の検討は『日記』によるものとなる。

ところで、稲葉家住宅離れ座敷の米材体積算定では 1 間＝5 尺、1 丈＝7.5 尺と換算された^{注41)}ため、数値の検討が必要である。間と丈は冷水材木店分で用いられるため、冷水材木店分で検討を行う。

先ず、“1 間＝5 尺、1 丈＝7.5 尺”と仮定して値段を求めると、表 4 第 1 項目の“間”における尺立方当たりの単価は 1.87 円、“丈”では表 4 第 7、9、11 項目が 2 円となり、前者に対する後者の割合は 94%に留まる。一方、“1 間＝6.3 尺、1 丈＝10 尺”とする一般的な値で求めると、表 4 第 1 項目の“間”における単価は 1.483 円、第 7、9、11 項目の“丈”における単価は 1.5 円で、前者に対する後者の割合は 99%となる。

以上より、上田家住宅における米材単価の算定には“1 間＝6.3 尺、1 丈＝10 尺”とする一般的な値を用いたことが確認でき、尺立方当たりの単価は 1.5 円程となる。

4-4 米材の体積とその割合

先ず、『材木控』における米材の材積を求めてみたい。『材木控』に示される米材は表 6 の通りで、材積は長さ、高さ、厚さ、員数を適宜掛け合わせ合計すると 443.9 立方尺となる。また、『材木控』で木材全体における材積も寸法と員数を掛け合わせ合計すると 970.7 立方尺となる。以上から、全材積に対する米材の割合は 46%となる。

なお、ここでは前述のように1間は6.3尺と考えた。

加えて『日記』の記述分における米材の体積も求めておきたい。
冷水材木店分の材積は表4より20.1立方尺、松山材木店分は表5より55.8立方尺と求まり、両者を合計すると75.9立方尺となる。
この値は『材木控』に記される外材の材積443.9立方尺に対して17%を占めるに過ぎない。

4-5 米材の購入額と木材購入額に占める割合

『材木控』における書き上げ443.9立方尺が米材購入量の全てと考え、米材の単価を全て1.55円と仮定すると、上田家住宅中央棟建築における米材購入の総額は688.045円となる。

一方、上田家住宅中央棟建築における材木購入の総額は『日記』の記述から1565.5円と求まっているので、この木材購入総額に対する米材の割合は44%となる。

5. さいごに

橋本市橋本上田家住宅における昭和9(1934)年の中央棟建築に際して作成された建築資料と建物の分析を通し木材供給のあり方を考察し、以下の諸点が明らかとなった。

- 1) 上田家住宅中央棟の工事に際して作成された金銭出入りの控帳となる『出入簿』の記述合計値5418.44円と計算合計値5426.97円の間には8.53円の誤差が確認された。
- 2) 上田家住宅中央棟の建築では地元橋本の2カ所から材木の供給を受け、加えて堺から橋本で入手の難しい板材の購入を行った。
- 3) 上田家に米材を供給したのは地元橋本の2業者で、納入された米材は2階床組、小屋材を中心とする長大材及び板材と正面のせがい造、天井を構成する部材であった。
- 4) 上田家に納入された米材の単価は1.55円／立方尺で、材積は443.9立方尺、全材積に対する米材の材積の割合は約46%となる。また、米材購入の総額計算上688.045円となり、木材購入総額に対する割合は44%であった。

昭和4(1929)年の稲葉家住宅離れ座敷の建築において、米材の占める割合は材積で32%、木材の値段に占める割合で13%であったことを考慮すると、昭和9(1934)年の上田家住宅中央棟の建築において米材の占める割合が材積、値段共に伸張した。そして米材は大きな材寸が安価に得られるという特性から、軸組のうち梁組に多く用いられ、建物正面の出桁、腕木など意匠の見せ場となる部位にも用いられたことが確認できた。

本研究は平成28(2016)年度科研費補助金 基盤研究(C)15K06400の助成による研究成果の一部である。

参考文献

- 1) 梅嶋修：近代における町家建築・屋敷構え・町並みの形成 和歌山県橋本市中心市街地の文書・図面・棟札・幣串より 本冊・別冊資料、私家版、2008.3
- 2) 橋本の町と町家の研究会：橋本の町と町家、2002.3
- 3) 平山：大正3(1914)年建築の橋本市木村家主屋に対する木材の供給 近代の橋本市中心市街地における住宅建築に対する木材の供給 その1、日本建築学会計画系論文集 679、pp. 2165～2170、2012.9
- 4) 平山：大正9(1920)年建築の橋本市池永家住宅離れ座敷に対する木材の供給 近代の橋本市中心市街地における住宅建築に対する木材の供給 その2、日本建築学会計画系論文集 718、pp. 2907～2914、2015.12

- 5) 平山：近代の和歌山県橋本市中心市街地における住宅建築に対する木材供給のあり方-7 稲葉家住宅の昭和4(1929)年別座敷建築における米材の供給 和歌山県橋本市中心市街地における町と町家の調査研究 その93、日本建築学会北陸支部研究報告書 54、pp. 679～680、2011.7
- 6) 梅嶋修、平山、御船達雄：近代末期の普請・建築文書に見る町家の建築総費用と祝儀の関係 昭和9(1934)年建築、和歌山県橋本市上田家住宅中央棟の場合、日本建築学会計画系論文集 580、pp181-187、2004.6

注

- 注1) 参考文献3)
- 注2) 参考文献4)
- 注3) 参考文献5)
- 注4) 日本米材輸入組合：日本米材史、昭和18(1943).12
林業調査会：日本林業発達史(V)、昭和34(1959).11
- 注5) 堤洋樹ほか4名：平成3年度に建てられた在来木造住宅の実態分析 その10 外材の使用動向(1)、1997年度日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1、617～618頁、平成9(1997).7
- 注6) 杉原龍子ほか4名：平成3年度に建てられた在来木造住宅の実態分析 その11 外材の使用動向2、1997年度日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1、619～620頁、平成9(1997).7
- 注7) 参考文献2) 154～161頁
- 注8) 参考文献6) 181頁、参考文献1) 本冊22頁
- 注9) 参考文献6) 184頁、参考文献1) 本冊22～23頁
- 注10) 施主が各業者と別々に契約を行う直営の形を採るため、表1の分類は原則、業者毎とした。なお、基礎工事分が判明するが、分類項目は比較のため前稿までのものに従った。
- 注11) 参考文献1) 別冊資料177頁
- 注12) 参考文献1) 別冊資料172頁
- 注13) 参考文献1) 別冊資料173頁
- 注14) 参考文献1) 別冊資料182頁、に“妻 松山久吉”とある。
- 注15) 参考文献1) 別冊資料53頁、池永家における見積書末に“紀州伊都郡高野口町杖ヶ藪／製口□ 松山久吉”とある。
- 注16) 参考文献1) 別冊資料178頁、に“但シ材木見積書記入ノ／用材全部ノ材木代トシ／テ昭和八年十一月二日工場ニ／於テ左記ノ立会ノ上勘定ス／松山久吉／岩崎梅松／上田伊助”とある。
- 注17) 参考文献1) 別冊資料173頁
- 注18) 参考文献1) 別冊資料174頁
- 注19) 参考文献1) 別冊資料176頁
- 注20) 参考文献1) 別冊資料196～197頁
- 注21) 参考文献1) 別冊資料183頁
- 注22) 参考文献1) 別冊資料175頁
- 注23) 参考文献1) 別冊資料176～177頁
- 注24) 参考文献1) 別冊資料173頁
- 注25) 参考文献1) 別冊資料173頁
- 注26) 参考文献1) 別冊資料174、184頁
- 注27) 参考文献1) 別冊資料174頁
- 注28) 参考文献1) 別冊資料184頁
- 注29) 参考文献1) 別冊資料182頁
- 注30) 参考文献1) 別冊資料196頁
- 注31) 参考文献1) 別冊資料194～195頁
- 注32) 参考文献1) 別冊資料196頁
- 注33) 参考文献1) 別冊資料183頁
- 注34) 参考文献1) 別冊資料194頁
- 注35) 参考文献1) 別冊資料196頁
- 注36) 参考文献1) 別冊資料182頁
- 注37) 参考文献1) 別冊資料216頁
- 注38) 参考文献2) 154～161頁
- 注39) 参考文献1) 別冊資料においては“押上天井”と読んだ。
- 注40) 小梁となる“カモイ”が梁行に配されるため、板材は桁行に張られるとするのが妥当である。そこで、店舗の梁行真々寸法5,980mmを5寸＝152mmで割ると、39.3枚となる。
- 注41) 平山：近代の和歌山県橋本市中心市街地における住宅建築に対する木材供給のあり方-7 稲葉家住宅における昭和4(1929)年別座敷建築における米材の供給 和歌山県橋本市中心市街地における町と町家の調査研究 その87、日本建築学会北陸支部研究報告書 54、680頁、平成23(2011).7

STUDY ON THE SUPPLY OF THE LUMBER FOR BUILDING OF THE *UEDA'S* CENTRAL HOUSE IN 1933 AT *HASHIMOTO* IN *HASHIMOTO* CITY

Supply of the lumber for building house in central *Hashimoto* modern times part 4

Ikuo HIRAYAMA *

* Prof., Faculty of Design, Nagaoka Institute of Design, Dr. Eng., Dr. Design

This article clarified the actual situation of the wood supply and the use of American timber in the building of the house at the central area of *Hashimoto* city, in the early period of the *Showa* era.

The total level described to "*Deiri-bo*" that is the memo of money comings and goings made on the occasion of the construction of the Ueda's center house is 5418.44 *yen*, I calculated a total value with 5426.97 *yen*, and the error of 8.53 *yen* confirmed.

The American timber delivered to the *Ueda's* house were floor beams of the second-floor, the long large object mainly on hut materials, the *segai-zukuri* of front, a board of the ceilings. The unit price of the American timber delivered to the *Ueda's* house was 1.5 *yen* / cube *shaku*, and the material volume was a 443.9 cube *shaku*. In the construction of *Ueda's* center house, there was supply of the wood from two places of local *Hashimoto*; in addition, they purchased the board which had difficulty in acquisition at *Hashimoto* from *Sakai*.

The material volume of the American timber delivered to the *Ueda's* house was 46% of the whole, and the ratio for the wood purchase total sum was 44%.

In this way, the use of the American timber advanced by the construction of the *Ueda's* center house at 1934 still more. The characteristic that big materials size was cheap, and it was got from, the American timber was used a lot for a beam in particular. In addition, I confirmed that the American timber were used in the highlight of the design including the building front of *degeta* and *udegi*.

(2016 年 7 月 10 日原稿受理, 2017 年 1 月 16 日採用決定)